

株主の皆様へ
第80期
事業報告書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

森下仁丹株式会社



株主の皆様には平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社グループの第80期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。よろしくご高覧賜り、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長
駒村 純一

事業の概況について

当連結会計年度におけるわが国の経済は、海外経済の回復に伴う企業収益の改善、原油価格上昇に伴うガソリンや灯油の大幅上昇を主因とした消費者物価の上昇など、緩やかな回復基調が続いております。また、雇用情勢も有効求人倍率が上昇を続けるなど、雇用所得環境の改善を背景にした個人消費の持ち直しについても回復の兆しが見られるようになりました。

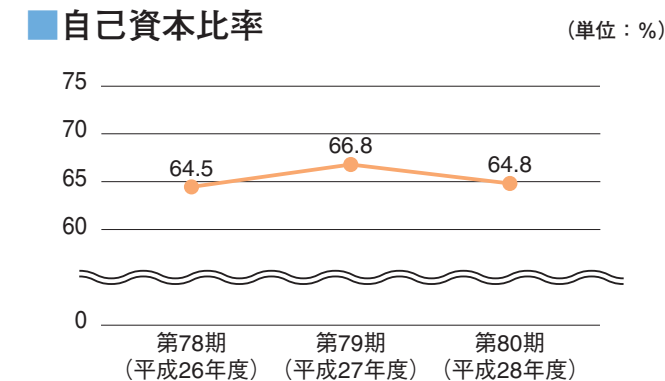
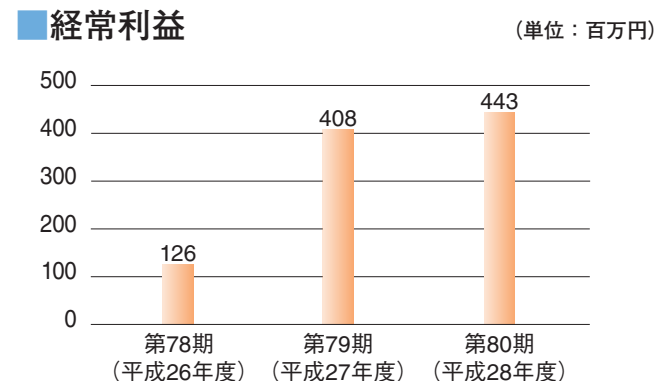
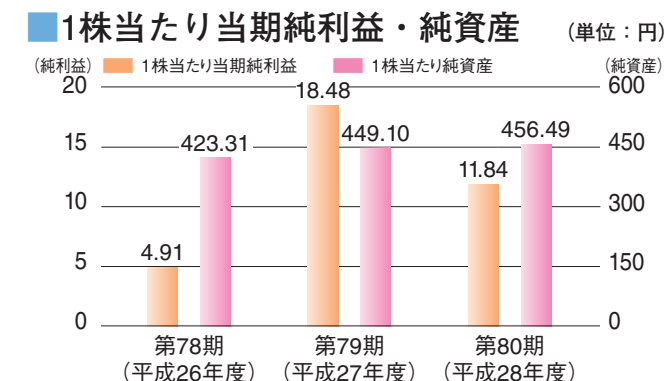
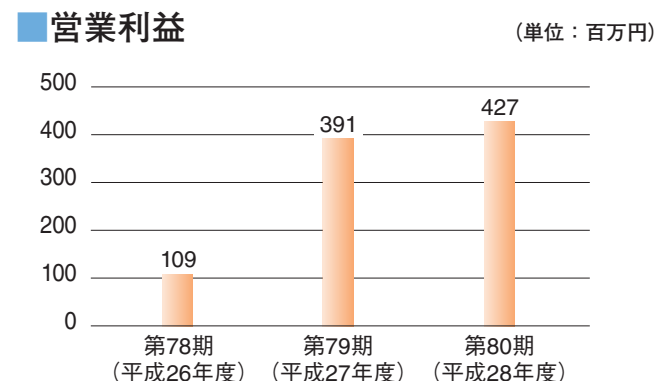
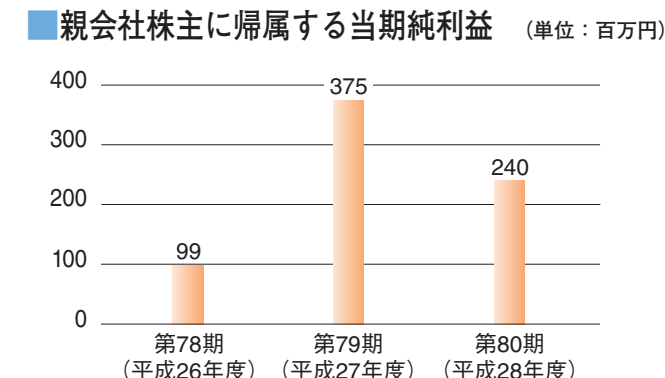
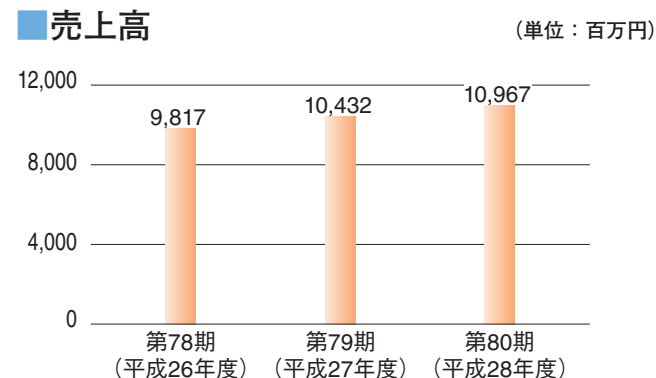
当社グループの属する業界も、健康意識の高まりが持続し、平成27年4月より食品の新たな機能性表示制度が始まる等大きな変革期を迎えました。但し、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。

このような状況のなか、当社グループとしては、「伝統と技術と人材力を価値にする」をビジョンとして平成27年機能性表示制度開始直後の6月に販売を開始した「ヘルスイド®シリーズ」が引き続き好調に推移したこと、また、機能性素材であるローズヒップ、サラシアといった当社独自の素材販売を強化することにより、売上高は、10,967百万円（前年同期比5.1%増）と前年同期と比べ535百万円の増収となりました。

利益面においては、効率的なプロモーション活動及びコストダウン諸施策による原価率の低減により営業利益は、427百万円（前年同期比9.0%増）と前年同期と比べ35百万円の増益となりました。

また、営業外損益を加えた経常利益は、443百万円（前年同期比8.5%増）と前年同期と比べ34百万円の増益となりました。

さらには投資有価証券評価損59百万円等の特別損失を加えた税金等調整前当期純利益は、379百万円と前年同期と比べ34百万円の増益となり、法人税等並びに法人税等調整額を加えた親会社株主に帰属する当期純利益は、240百万円（前年同期比35.9%減）と前年同期と比べ135百万円の減益となりました。



ヘルスケア事業



「セルフメディケーション」の推進を目指して

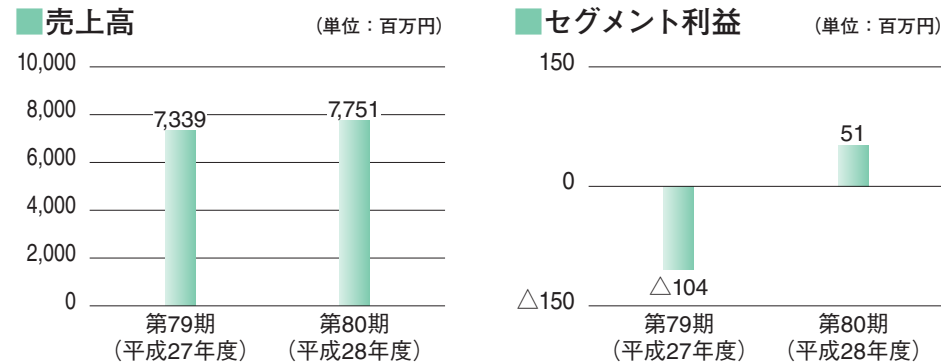
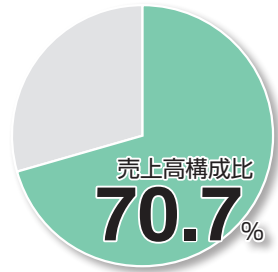
創業者・森下博は、「飲みやすく、携帯・保存に便利な薬を作りたい」という想いで「仁丹」を開発しました。

「健康とともに安心と安全をお届けする」この健康理念のもと、原料を厳選し、優良品を製造することを志とするその想いは今も受け継がれ、独自のカプセル技術とこだわりの品質の製品を、毎日健康ですごしたいと願う全ての皆様にお届けしています。

■当期の概況

当セグメントにおきましては、機能性表示食品「ヘルスエイド®シリーズ」が順調に推移し、また機能性素材の販売強化により、売上高は、7,751百万円と前年同期と比べ411百万円の増収となりました。

損益面では、回転率の悪い商品を評価減するなど在庫の整理をしましたが、効率的なプロモーション活動等により、当連結会計年度のセグメント利益は、51百万円と前年同期と比べ155百万円の増益となりました。



(注) 当連結会計年度より、一部の製品についてセグメント区分を変更しております。なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

カプセル受託事業



医薬品から食品、産業用まで進化し続ける シームレスカプセル技術

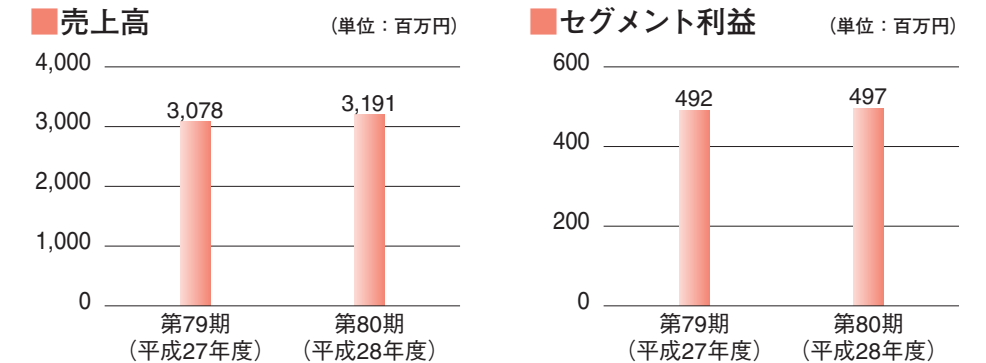
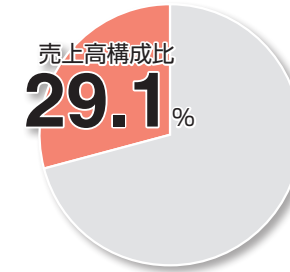
「液体の仁丹を作れないか」その思いから開発がはじまり、今では森下仁丹のコア技術として発展した「シームレスカプセル技術」。

粉末、液体、微生物などあらゆるものを包むことができ、また、皮膚の調整により、ドラッグデリバリーシステムを実現する医薬品から、食品、産業用まであらゆる分野への展開が可能です。

■当期の概況

当セグメントにおきましては、医薬品カプセルやその他の受託については前年並みに推移し、フレーバークラッシュも引き続き順調に推移し、その結果、売上高は、3,191百万円と前年同期と比べ112百万円の増収となりました。

損益面では、コストダウン諸施策による原価率の改善に努めた結果、当連結会計年度のセグメント利益は、497百万円と前年同期と比べ5百万円の増益となりました。



(注) ヘルスケア事業に記載の通り、一部の製品についてセグメント区分を変更しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 連 結 会 計 年 度 (平成29年3月31日現在)	前 連 結 会 計 年 度 (平成28年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	5,976	4,809
固定資産	8,343	8,858
有形固定資産	5,813	6,274
無形固定資産	202	216
投資その他の資産	2,327	2,367
資産合計	14,320	13,668
負 債 の 部		
流動負債	2,881	2,428
固定負債	2,154	2,105
負債合計	5,035	4,533
純 資 産 の 部		
株主資本	8,452	8,364
その他の包括利益累計額	832	770
純資産合計	9,284	9,134
負債・純資産合計	14,320	13,668

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
売上高	10,967	10,432
売上原価	5,281	4,912
売上総利益	5,685	5,519
販売費及び一般管理費	5,258	5,127
営業利益	427	391
営業外収益	42	37
営業外費用	26	20
経常利益	443	408
特別損失	63	63
税金等調整前当期純利益	379	344
法人税、住民税及び事業税	213	74
法人税等調整額	△ 75	△ 105
当期純利益	240	375
親会社株主に帰属する当期純利益	240	375

連結株主資本等変動計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
平成28年4月1日残高	3,537	963	4,000	△ 137	8,364	765	4	770	9,134
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 152		△ 152				△ 152
親会社株主に帰属する当期純利益			240		240				240
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						64	△ 2	62	62
連結会計年度中の変動額合計			88	△ 0	87	64	△ 2	62	149
平成29年3月31日残高	3,537	963	4,089	△ 137	8,452	829	2	832	9,284

貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 (平成29年3月31日現在)	前 期 (平成28年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	5,872	4,724
固定資産	8,471	8,984
有形固定資産	5,813	6,273
無形固定資産	202	215
投資その他の資産	2,455	2,495
資産合計	14,343	13,708
負 債 の 部		
流動負債	2,897	2,452
固定負債	2,156	2,109
負債合計	5,053	4,561
純 資 産 の 部		
株主資本	8,460	8,381
評価・換算差額等	829	765
純資産合計	9,289	9,146
負債・純資産合計	14,343	13,708

損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで)	前 期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
売上高	10,906	10,278
売上原価	5,280	4,911
売上総利益	5,626	5,366
販売費及び一般管理費	5,214	5,005
営業利益	412	360
営業外収益	42	41
営業外費用	26	20
経常利益	428	382
特別損失	63	63
税引前当期純利益	364	318
法人税、住民税及び事業税	205	69
法人税等調整額	△ 72	△ 105
当期純利益	231	354

株主資本等変動計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等			純資産合計
	資 本 金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
		固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金						
平成28年4月1日残高	3,537	963	951	3,066	△137	8,381	765	765	9,146
事業年度中の変動額									
剰余金の配当				△152		△152			△152
固定資産圧縮積立金の積立			△ 22	22		—			—
固定資産圧縮積立金の取崩				—		—			—
当期純利益				231		231			231
自己株式の取得					△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						—	64	64	64
事業年度中の変動額合計			△ 22	101	△ 0	78	64	64	142
平成29年3月31日残高	3,537	963	928	3,167	△137	8,460	829	829	9,289

TOPICS 7 1日に必要な「ビタミンD」目安量を1滴で手軽に補給!

『BabyD_®200 (ベビーディー200)』2017年4月3日(月)より発売

当社は、ビタミンD不足を補う液状のサプリメント「BabyD_®」の**高用量タイプ**「BabyD_®200 (ベビーディー200)」(価格: 1,800円/税抜)を、2017年4月3日(月)より、医療機関売店、通信販売にて発売しています。既存商品の「BabyD_®」はビタミンDの配合が1滴に2.0 μ gですが、新商品「BabyD_®200」は1滴に5.0 μ gのビタミンDを配合した高用量タイプです。

本商品は、赤ちゃん(0~11ヵ月)が**1日に必要とするビタミンDの摂取目安量5.0 μ gを1滴で効率よく摂取**することができる、香料・着色料・保存料不使用の商品です。医療機関から紹介を受けた方のみ購入が可能です*1。近年、乳幼児のビタミンD不足が懸念されており、2016年8月に血中ビタミンD濃度の測定が一部保険診療となったことをうけ、ビタミンD摂取の重要性がさらに高まることが予見されます。また、多くの小児科医から高用量タイプのご要望をいただいたことから、「BabyD_®200」の商品化にいたしました。

今後は、国内のみならず、日本と比べビタミンDの摂取に積極的な海外需要も視野に、さらなる拡売を図ってまいります。

*1 「BabyD_®200」のご購入に際しては、小児科の医師、助産師、保健師等にご相談ください。森下仁丹オンラインショップにてお買い求めいただけますが、ご購入の際には医療関係者の方からのご紹介有無を確認させていただきます。

「Baby D_®200」商品特長◆ビタミンD 5.0 μ gを1滴で補給

0歳児が1日に必要とするビタミンDの摂取目安量は、5.0 μ gです。「BabyD_®200」なら、1滴でしっかり補えます。ビタミンDは、生きていく上で欠かせない栄養素のひとつです。



【価格】1,800円(税抜)
【内容量】3.7g(約90滴分)

◆0歳(生後1ヵ月)の乳幼児から摂取可能

液体ですので、授乳期のお子さまから摂取が可能です。開発には小児科の医師の声を反映させました。お子さまが安心して摂取できるよう、香料、着色料、保存料を使用していません。また、卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かには不使用です。

◆無味無臭で使いやすい

においや味がしないので、どんな飲み物食べ物にも混ぜやすく、乳幼児にも手軽に与えることができます。清潔にしたお母さんの乳首や指先、おしゃぶりに滴下して、口にふくませて与えることもできます。

0歳から
摂れる

TOPICS 2 【森下仁丹】×【田辺三菱製薬】が共同企画

機能性表示食品「アスパラ_®メタロック_®」2017年4月6日(木)より発売

当社は、田辺三菱製薬株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:三津家正之)との共同企画商品として、「ローズヒップ由来ティロロサイド」を配合したドリンクタイプの機能性表示食品「アスパラ_®メタロック_®」を2017年4月6日(木)より店頭販売、通信販売にて、発売しています。

「アスパラ_®メタロック_®」は、森下仁丹の独自素材「ローズヒップエキス」を使用し、機能性関与成分として「ローズヒップ由来ティロロサイド」を0.1mg(1日摂取目安量あたり)配合した機能性表示食品です。「ローズヒップ由来ティロロサイド」には、高めの体脂肪やBMIを落とす機能があることが報告されています。体脂肪やBMIが高めの方にも継続して飲んでいただけるよう、「カロリーゼロ*・脂質ゼロ」を実現しました。田辺三菱製薬の「アスパラ_®」ブランドのドリンクと同じフレーバーを使用し、さわやかで飲みやすい味となっています。

高めの体脂肪とBMIに「アスパラ_®メタロック_®」

◆機能性関与成分として「ローズヒップ由来ティロロサイド」を0.1mg配合

◆カロリーゼロ*・脂質ゼロ

*100mlあたり5kcal未満のものに表示可能(食品表示基準による)

◆田辺三菱製薬「アスパラ_®」ブランドのドリンクと同じフレーバー使用

届出番号	B281
機能性関与成分	ローズヒップ由来ティロロサイド
届出表示	本品にはローズヒップ由来ティロロサイドが含まれます。ローズヒップ由来ティロロサイドには、高めの体脂肪とBMIを落とす機能があることが報告されています。
一日摂取目安量	1本(100mL)
価格	1本:250円(税抜) 10本:2,500円(税抜) 30本:7,000円(税抜)

「アスパラ_®メタロック_®」は販売者である森下仁丹株式会社から田辺三菱製薬株式会社へ「アスパラ_®」ブランドを使用し、共同企画した商品です。「アスパラ_®」は田辺三菱製薬株式会社、「メタロック_®」は森下仁丹株式会社登録商標です。



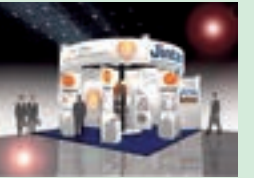
TOPICS 3 「CPhi JAPAN 2017」に出展

~独自の多層化・腸溶性・大腸崩壊性シームレスカプセルなどの最新情報を紹介~

当社は、2017年4月19日(水)から21日(金)の三日間、東京ビッグサイトにて開催された、国際医薬品原料・中間体展「CPhi JAPAN2017」に、企業ブースを出展しました。シームレスカプセルのパイオニアとして、技術の核心と最新情報を業界企業の開発者に発信し、さらなる事業拡大を目指しています。

<出展内容>

当社の「シームレスカプセル」は、粉末から液体、生きた微生物まで包むことができ、さらに皮膜には耐酸性、耐熱性、半透膜性など様々な機能を持たせることが可能です。医薬品や健康食品への展開だけでなく、産業用分野などへの応用も可能です。出展ブースでは、**独自の多層化・腸溶性・大腸崩壊性カプセルなどに関する最新情報や、DDS(ドラッグデリバリーシステム)技術をご紹介しました。**また出展社プレゼンテーションでは、当社の研究開発責任者が**シームレスカプセルの医薬品剤形応用についての説明**を行ないました。



ブースイメージ

TOPICS 4 サッカー選手を夢見る東南アジアの子供たちを応援!

「U-14 アセアンドリームフットボールトーナメント2016/17」にメインパートナーとして協賛

当社は、2017年3月20日(月)から、26日(日)の期間、タイ・バンコクにおいて開催された、アジアサッカー全体のレベルアップと国際交流を通じたグローバル人材の育成を目的にした「U-14 アセアンドリームフットボールトーナメント」の第3回大会に、メインパートナーとして協賛いたしました。今大会は、タイプレミアリーグと一般社団法人Japan Dream Football Associationの協力のもと行われ、JDFAのオフィシャルスポンサーである当社は大会趣旨に賛同し、第1回大会より協賛を続けています。

U-14世代を対象に開催される今大会のアンバサダーには、過去2回の大会に続き、タイを中心に東南アジア各国にて様々な普及・育成活動を行っている、元ガンバ大阪の木場昌雄氏(一般社団法人Japan Dream Football Association 代表理事 / Jリーグ・アジアアンバサダー)を迎え、大会を通じて最も才能と可能性を感じさせてくれた3選手を「アセアンドリームプレイヤー」として選出し、Jリーグのアカデミーチームへ短期留学生として派遣する機会を提供します。今回は、2014年の12チーム、2015年の20チームからさらに規模を拡大し、日本から6チーム、アセアンから2チーム、そしてタイから16チームを迎え、合計24チームで開催されました。「Chonburi FC」が優勝を飾り、6日間にわたって熱戦が繰り広げられた大会は無事幕を閉じました。

■森下仁丹と東南アジア諸国のつながり

当社は、タイをはじめとした東南アジア諸国に向けて、戦前より積極的に商品を輸出・販売しております。またタイにおいては仁丹をはじめとした口中清涼剤をドラッグストアやコンビニエンスストアで販売しており、当社商品は今も昔も現地の方々の生活に深く根付いています。そうした日頃のご愛顧に感謝の気持ちを示すため、JDFAおよび本大会へのスポンサーシップを通じて、子供たちへのチャンスの提供と夢の実現に寄与したいと考えております。



U-14 ASEAN Dream Football Tournament 2016/17 優勝チーム「Chonburi FC」



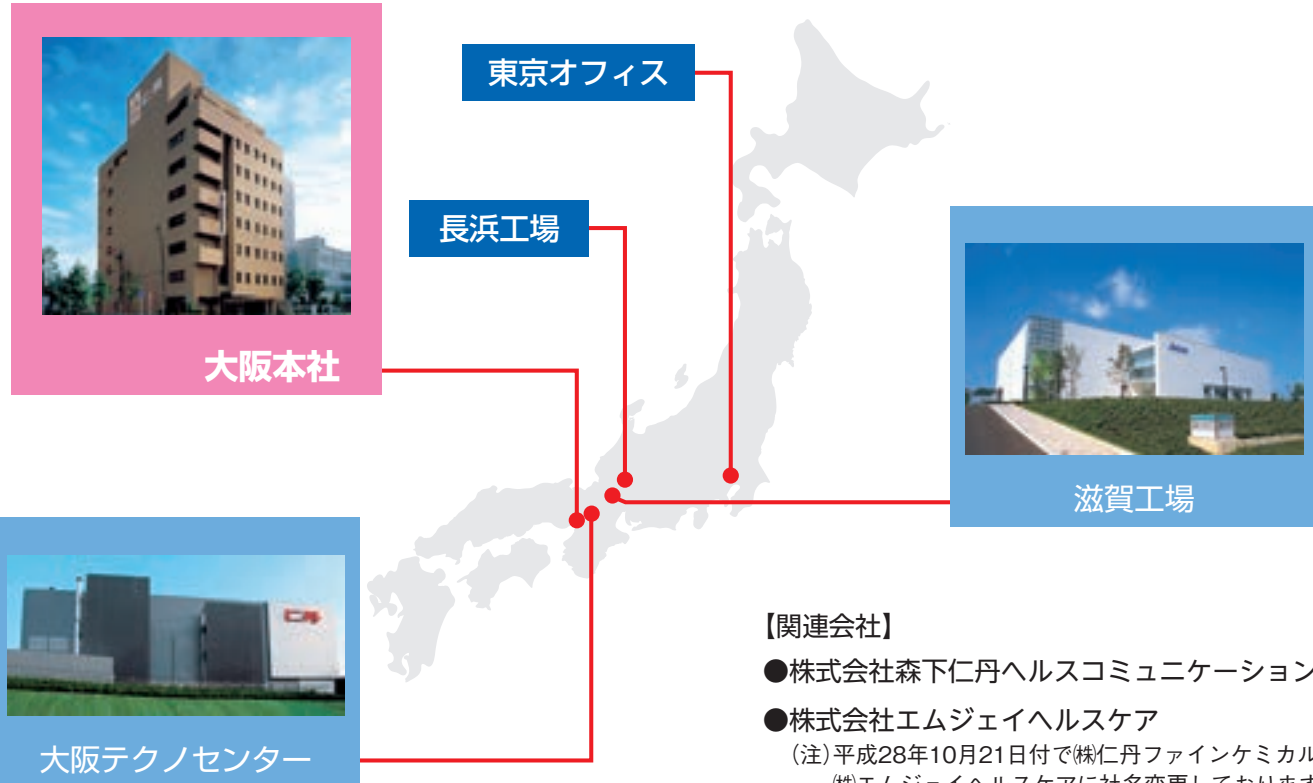
試合でボールを競り合う選手たち



開会スピーチを行う当社社長(駒村純一)

商号 森下仁丹株式会社 MORISHITA JINTAN CO., LTD.
 資本金 35億3,740万円
 事業の内容 医薬品、医薬部外品、医療用具、化粧品、食品および雑貨等の製造販売
 事業所および工場

本社 大阪市中央区玉造一丁目2番40号 電話(06)6761-1131(代表)
 大阪テクノセンター 大阪府枚方市津田山手二丁目11番1号 電話(072)800-1040
 滋賀工場 滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12 電話(0749)48-7370
 長浜工場 滋賀県長浜市小野寺町字下寺70番7 電話(0749)74-8500
 東京オフィス 東京都千代田区神田富山町10番地2 アセンド神田ビル6F 電話(03)6206-8138



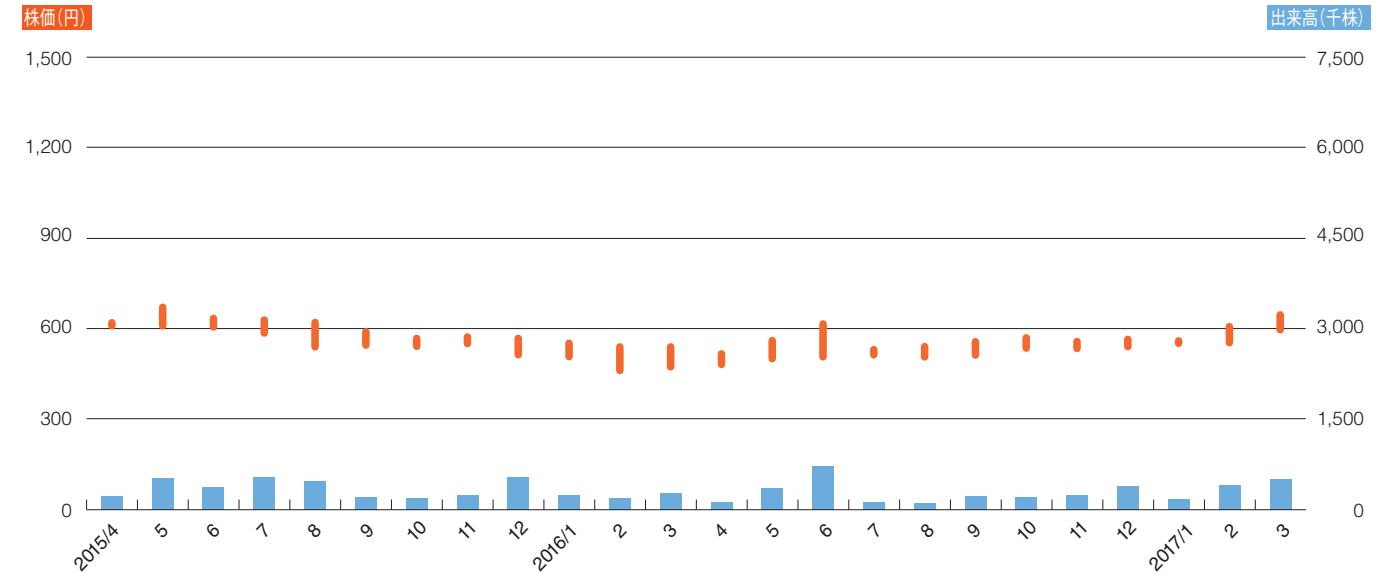
- 【関連会社】
- 株式会社森下仁丹ヘルスコミュニケーションズ
 - 株式会社エムジェイヘルスケア
(注)平成28年10月21日付で(株)仁丹ファインケミカルは、(株)エムジェイヘルスケアに社名変更しております。
 - 株式会社エムジェイラボ

役員

代表取締役社長	駒村純一	監査役	澤田 侑己
取締役名誉会長	森下美恵子	監査役	石原真弓
取締役	上村秀人	常務執行役員	目黒一夫
取締役	齋藤洋一	常務執行役員	森田真司
取締役	森下雄司	執行役員	表 匡 聡
監査役(常勤)	高田真一		

(注) 1. 取締役のうち齋藤洋一氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 2. 監査役のうち澤田侑己、石原真弓の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株価および出来高推移



株主メモ

事業年度末日 3月31日

期末配当金
受領株主確定日 3月31日

(中間配当を行う場合 毎年9月30日)

定時株主総会 毎年6月

公告の方法 電子公告 (<http://www.jintan.co.jp>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

金融商品取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

- 【ご注意】
1. 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【ご案内】 少額投資非課税口座(NISA口座)における配当等のお受け取りについて
新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。
ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「株式数比例配分方式」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。
NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

当社ホームページのご案内

当社WEBサイトで各種情報を公開しております。
是非一度ご覧ください。

<http://www.jintan.co.jp>



▲ トップページ



▲ IR情報